

邑助けネットワーク

地域に暮らしの人たちが、日常生活でどんな支えを必要としているか考えたことはありませんか。住み慣れたまちで、誰もが安心して暮らせるように、地域でできることを語り合ってみませんか。住む人同士が気軽に声をかけ合い、困ったときにも支え合えるような地域をみんなの手でつくっていきませんか。

暮らしは時代とともに変化

年齢を重ねるほど「困りごと」が増えてきます。話し相手がいなくて寂しい、出掛けるのが面倒、掃除ができない、買い物や通院する足がない、ごみが捨てられない……など、身に覚えがありませんか。

少子高齢化や核家族化が進む中、高齢者の一人暮らし世帯や介護を必要とする高齢者が増えています（下表）。また、生活不安や貧困、家庭内暴力や虐待など、社会の問題は年々複雑化してきています。

人と人の間に距離感？

古くから主な介護は家族が担っていました。家族で対応で

きない場合は近所や地域で助け合ったり、それ以外は国や市町村の福祉サービスを利用する形式がとられていました。そして、高齢者と家族を社会全体で支える仕組みの一つとして、平成12年に介護保険制度が始まりました。

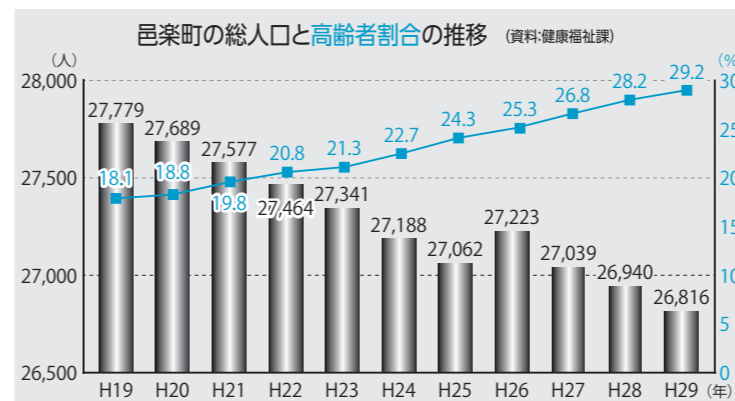
介護保険制度により、利用者本人や家族が自ら選択して介護サービスを受けることができるようになりました。しかし一方で、近所や地域との関係が薄れるといったことも起きています。

お互いさまの関係を今一度

自分が高齢になっても、住み慣れた地域で最後まで自分らしく暮らし続けるためには、公的

な制度のみでなく、ごみ出しや買い物などの地域の身近な助け合いが大切です。つまり、人に

とって暮らしやすさの基盤の一つとして、お互いさまの関係があります。



- 高齢者世帯数は増加** ※ここの「高齢者」は65歳以上。
「高齢者夫婦のみの世帯」と「高齢者の一人暮らし世帯」を高年齢世帯とした場合、平成27年10月1日時点で2,107世帯。10年間で約2.2倍に増加しています。
- 要介護(要支援)認定者の人数も年々増加**
要支援・要介護認定を受けている人の数は、平成29年3月31日時点で1,091人。年々増加しています。
- 老人クラブ数と老人クラブ会員数は安定して推移**
平成29年3月31日時点で老人クラブ数は20、会員数は1,170人です。

平成29年11月30日、第8回邑助けネットワーク(協議体会議)の様子。メンバーは、地域づくりに関心のあるボランティアグループ、地縁組織、老人会、商工会、社会福祉協議会などから集まった皆さん。地域の困りごとや地域でできることを話し合い、情報交換をしています。この日は、第2層(左ページ図1)の協議体立ち上げに向けて、必要なことを確認しました。



地域づくりの新しい仕組み

全ての人が安心して自立した生活を送ることができると地域をつくるためには、日常生活の課題を早めに発見し、適切に解決を図ることが必要です。その際、自分や家族で問題を解決す

る「自助」と、医療保険・介護保険などの「共助」、公的に生活の保障を行う「公助」があります。その自助と共助・公助の間に地縁組織、社会福祉法人、民間企業、ボランティアなどの連携による「互助」の仕組み、すなわち「地域福祉」の仕組みをつくること

が極めて大切になっています。今、全国の市区町村で「地域の視点で住民が中心になって広げよう」という地域の助け合い活動の取り組みが始まっています。国ではこの取り組みを「生活支援体制整備事業」といっています。

邑楽町らしいのは「邑助け」

町では平成28年から勉強会を開催しています。身近な地域の問題や活動について、情報交換をしてきました。そして平成29年2月、「邑助けネットワーク」がスタートしました。

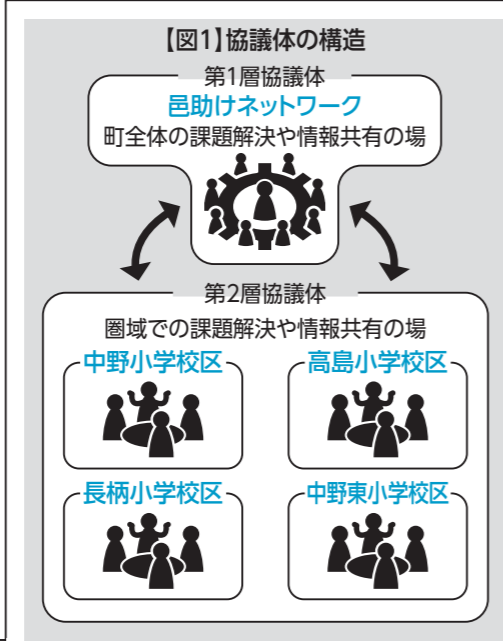
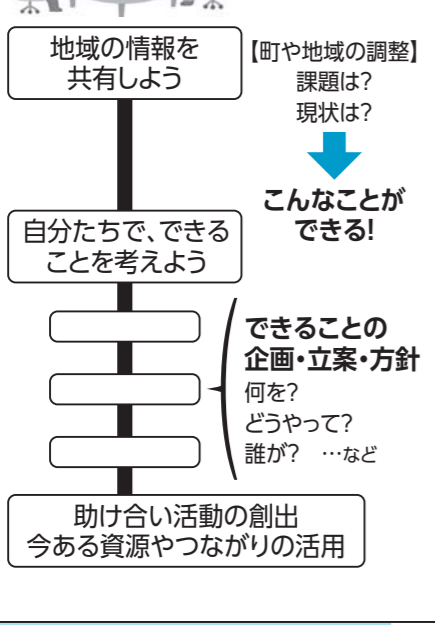
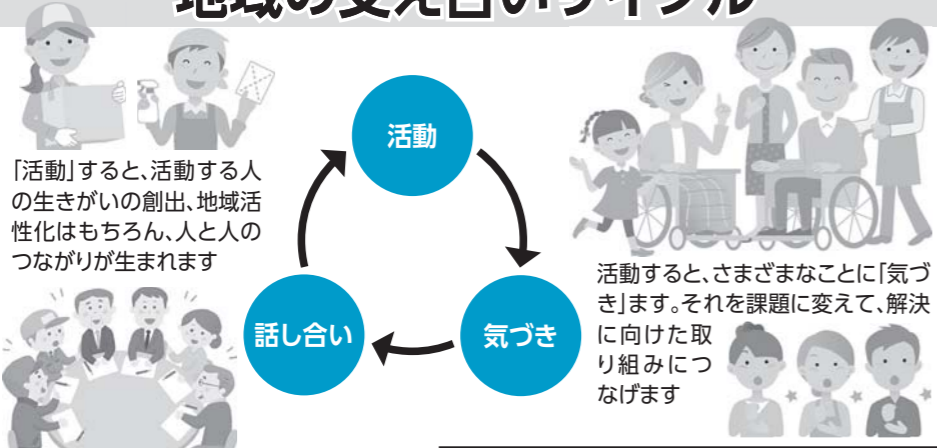
よって困りごとはさまざまです。細かく地域を見つめ、より身近に支え合う仕組みをつくるためには、町全体を第1層、小学校圏域を第2層として、4圏域に第2層の協議体の設置を目指す必要があります(図一)。

第2層協議体の設置を目指す

邑助けネットワークでは、第2層協議体の設置に向けて勉強会を行うこととしました(4月以降開催予定)。

地域の人がつながり、地域の情報を共有しながら、地域の課題を自分たちの力で解決できる方法を探していきます。誰もが安心して暮らせるように、住み慣れた地域でできることを語り合ってみませんか。

地域の支え合いサイクル



人が感じる暮らしの不便や困りごとは、年齢を重ねたとき、けがや病気をしたときなどに、誰もが直面する問題ともいえます。それらを地域の課題として共有することは、みんなが暮らしやすい地域づくりの第一歩になると思いませんか。

問合せ
役場健康福祉課 ☎47-5021